



製造の自動化と職人の手技を融合させ 高品質のオーダーカーテンを提供

有限会社ウインドデコール 代表取締役 秋本 静代氏

マシン1台からのスタート 大手ホテルのカーテンを手掛ける

個人事業主としてのスタートから約50年にわたり、手づくりの高品質なオーダーカーテンを製造し続けてきた福岡市南区の(有)ウインドデコール。その名前の由来は“窓の装飾”です。単にカーテンをつくるのではなく、クライアントのオーダーを形にしながら、さまざまな“カーテンのある風景”を演出することがゴールだといいます。事業は福岡にとどまらず、西日本エリアのホテルやハウスメーカーから広く依頼を受け、培ってきた人の手と心の技で、質感、手触り、雰囲気こだわったカーテンを提供しています。

事業を始めたのは代表取締役の秋本静代さん。「弟がインテリアの仕事に

携わっていたことをきっかけに、そのお手伝いとしてペンションなどのオーダーカーテンをつくり始めました。ほぼ独学でマシン1台から事業をスタートしましたが、お客様が1人増え、2人増え、平成に入った頃に老舗メーカーのカーテンを手掛けるにあたって法人化しました。オーダーを受けたそのカーテンは、とても素敵な生地で、このような上質な生地を縫いたいと思い、百貨店を通じて製造させていただくようになったんです」と振り返ります。今では一般的なカーテンだけではなく、上下に開閉するローマンシェード、レースをベースとしたフリルやトリムでデコレーションしたスタイルカーテンなど、さまざまなオーダーに対応。それを可能にしたのが、秋本さんの仕事に対する姿勢でした。「技術的に他の工場ができないと

【プロフィール】

福岡県生まれ。個人事業主としてカーテンの縫製を始め、1992年にカーテンメーカーとの協業をきっかけに法人化。(有)ウインドデコールを設立し、西日本を中心にオーダーカーテンを届けている。

断ったものでも、私たちは基本的にお断りすることはありません。経験がなくても一度やればつくり方はわかりますからね」と、どんな依頼にも真摯に向き合います。

高品質かつ短納期での商品納入を目指し、2018年には福岡商工会議所の支援によって経営革新計画の承認を受け、スタイルカーテンを設計するCADシステムや自動縫製機を導入。その一方で窓にフィットさせる丈決め、カーテンの美しさを決定づけるヒダ取りなど、各工程で経験豊かな職人たちの手作業も重視し、高い顧客満足度を維持しています。



1 注文から納品まで、13もの工程をたどっていくオーダーカーテンの製造。随所に職人の技が光っている

3 需要の増加に伴い、自動縫製機など設備も強化。職人の手技と合わせ、高いクオリティと短納期の両立を目指している

2 こだわり抜いた商品が並び秋本さんの店舗「ランキュラス」。南フランスのテイストを取り入れ、自然と調和した佇まいでお客さまを迎えている

4 「小学生の時は、学校から帰ってくると会社の人たちに遊んでもらっていたんです。カーテンづくりは未経験でしたが、会社は馴染みのある風景」と川野さん

蓄積した技術を活かして インテリアファブリックも販売

秋本さんは会社を営む傍ら、2000年にインテリアファブリックと雑貨を販売する店舗「ランキュラス」を出店しました。ウインドデコールの本社に隣接し、厳選したメーカー・ブランドの生地を使った一般家庭向けのオーダーカーテン、クッションなどを販売しています。

「カーテンの製造にも仕事量の波がありますから、仕事が落ち着いた時間と余った端切れなどを活用して、オリジナルのインテリア小物などを製造しているんですよ。私がデザインを試作して工場で量産していて、商品は店舗だけではなくオンラインショップでも販売しています」

また手作りのショッピングバッグもランキュラスの人気商品のひとつ。「以前、母が空いた時間に端切れを使って小物袋をつくっていたんです。お客さまからの要望に応じてショッピングバッグにしたところ、コレクションとして集める方などもいらっちゃって、今ではお買い物の楽しみのひとつになっているようです」と秋本さん。

祖母から孫へと事業を承継 日本から世界へと視線は高く

コロナ禍でホテルなどからの注文が減り、ウインドデコールは一時、苦境に立たされたといえます。現在はインバウンドが回復したことが影響し、大手ホテルをはじめカーテンの注文も増えてきたそう。今後はロビーなどに設置されている大型のローマンシェード製造にも対応できるよう、設備投資を検討しています。とはいえ、ウインドデコールの強みは、職人の手仕事。そのため人材育成にも力を注ぎ、社員一人ひとりが最低3つの工程を担えるようにトレーニング。ローテーションを組み、幅広い経験を積ませることを大切にしています。

今後は事業承継も視野に入れている秋本さん。2024年には孫である川野恭太さんが入社し取締役役に就任。カーテンの各製造工程を経験しながら、技術を磨いています。「祖母から誘われて入社しましたが、実際にカーテンづくりに携わってみることで、あらためてものづくりの楽しさを感じているところです。日本の人口が減少していく中、一般家庭では既製品のカーテンが主流になり、オーダーカーテンの需要も減ってい

ます。将来的には人口が増えている海外などにも目を向けていきたいですね」と意気込みます。

縫製のオートメーション化を進めながらも、職人の手技を重視し品質にこだわったものづくりを続けてきたウインドデコール。どんな要望にも応え、商品を“縫い上げる”という使命に邁進してきた歴史は今後も承継されていきます。海外進出の新たなチャレンジにも期待が膨らみます。

取材日：7月14日



有限会社ウインドデコール

〒815-0075 福岡市南区長丘
2-3-18
TEL:092-533-7988
<https://wind-decor.jp/>

